



感覚

2-3-3 触って、モデルのポーズをつくろう

授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導
実態：小学生 ・自分の体や相手の体のイメージが掴みにくく、体幹がしっかりしていない。 ・相手との距離感が曖昧でトラブルを起こすことが多い。	長期目標 ・自分や相手のボディイメージを高める。 ・適切なコミュニケーション力を付ける。		
通級での指導・支援 自分や相手のボディイメージを高めるために ○ 準備体操をする。 ・簡単なストレッチや四肢を伸ばしたり、曲げたりする体操で体をほぐす。 <small>『発達障がい児の脳と感覚を育てる かんたん運動』 より</small> ○ 体の部位の確認 ・指導者がモデルとなって、首、胸、背中、肘、膝、左右手、左右足等々を示し、部位名称を確認しながら、各児童が自分の部位を触る。 ・同様にお互いの部位を触れ合う。 <small>『気になる子どものできた！が増える 体の動き指導アラカルト』 より</small> ○ アート&ネンド(芸術と粘土)をする。 ①モデル役と芸術家役と粘土役を決める(3人一組で行う)。 モデル役はアイマスク無し、芸術家役と粘土役はアイマスク有りで行う。 ②芸術家役がモデル役のポーズを手で触り、ポーズの形を把握していく。 ③次に、その把握した形に、粘土役の手足を動かす。 ④粘土役は、自分で動かず、芸術家役に委ねる。 ⑤この作業を繰り返しながら、芸術家役がモデル役のポーズを、粘土役に再現していく。 ⑥披露し合う。 ⑦各役割を交代して繰り返す。 <small>『みんなのPA系ゲーム243』より</small>	通常の学級での指導・支援 ・ペア学習やグループ学習をできるだけ、各授業に取り入れる。 ・体育の時間に「体ほぐしの運動」「身体接触のある運動」「力の加減が必要な運動」等を積極的に取り入れる。 ・週に数回、学級遊びとして外遊びをする。 ・協力してする作業や少人数で力を合わせて行う作業を意識的に取り入れる。 ・友だちと少しでもうまくできている時を見逃さずほめる。何が良かったのかを具体的に伝え、振り返ることを継続する。 (言語化し、強化する)		
通級での変容 * 自分の体の部位の名称と共に身体感覚としても学んだ様子だった。 * お互いの体に触れ合うことで、グループ内の関係性がよりよくなった。 (一緒に遊ぶ機会が増えた、会話が楽しく弾むようになった、相手のことを気にしたり、気遣ったりすることが多くなった等) * 姿勢について声をかけると、修正が早くなった。	通常の学級での変容 * 友だちとのトラブルは減りつつある。 * 通常の学級での友だちとのつながりの中で、適切なコミュニケーション力が育まれてきた。		



感覚

2-3-4

じっくり考えて行動できるようになったよ

授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導	グループ指導	

実態:小学校 低学年

- ・気になる物があるとすぐに動いてしまい、注意されやすい。
- ・一目で判断してしまい、最後まで話を聞いていなかったり、思い込んだりする。

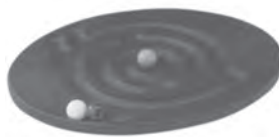
長期目標

- ・体をコントロールし、注意・集中できる時間を延ばす。
- ・複数の情報を捉えて、正しく判断する。
- ・ルールを守って遊ぶことができる。

通級での指導・支援

体をコントロールできるようになるために

- ・トランポリン(障害物をよけて跳ぶ)
- ・〔はだしバランスボード〕・バランスボール
- ・風船バトミントン



はだしバランスボード

複数の情報に注意をはらうために

- ・〔いっしょに玉はこび〕
- ・〔ウェイブバランス平均台〕
- ・棒引きゲーム〔パリナ〕



いっしょに玉はこび



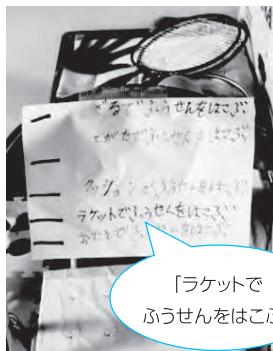
ウェイブバランス平均台

ルールを守って遊ぶことができるようになるために

- ・すごろくづくり
- ・カードゲーム〔キャット&チョコレート〕〔私の世界の見方〕



プレイルームにて、自由な発想で作り上げます。



「ラケットでふうせんをはこぶ」

すごろくづくり



キャット&チョコレート



私の世界の見方

通常の学級での指導・支援

- ・刺激を減らしたり、声かけをしやすい場所にしたりする等、座席位置に配慮する。
- ・「これから三つのポイントを話します」等と予告したり、活動の見通しをもたせたりして、集中できるよう促す。
- ・失敗したときには、思いを認めた上で事実確認をし、何を見逃したり、聞き逃したりしているか考えさせる。

通級での変容

*はじめはタイミングがずれてしまい、自分が思っているようにできなくてイライラしたりしていたが、繰り返し練習してレベルアップしていくうちに、慎重に行動できることが増えてきた。

通常の学級での変容

*衝動的な行動が減り、「ちょっと待って考えること」ができるようになった。友だちとの行き違いも少なくなってきた。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導	グループ指導	

<p>実態：小学校 高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝起きにくく、遅刻や欠席が目立つ。 ・家族に注意されたことを素直に聞き入れることができず、癪癪を起こす。 ・整理整頓が苦手な宿題や持ち物の忘れ物が目立つ。 ・話を聞いていないと注意をされることが多い。 	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の予定を把握し行動(スケジュール管理)できるようになる。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えることができる。
---	---

<p>通級での指導・支援</p> <p>自己理解を進めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SST <ul style="list-style-type: none"> ・実際に起こった出来事(学級担任や保護者からの聞き取り)の場面設定を行い、ロールプレイを行う。 ・ロールプレイを通して自分の行動を客観的に捉え、好ましい行動について考える。 ・好ましい行動をとるための目標を設定し、目標達成のための具体的な手立てについて考える。 ・毎週、目標が達成できたかどうかを振り返る。 ○ 『あたし研究』の本を読み、著者と似ているところについて考え、自分の得意なことや苦手なことについて考える。 <p>自分の予定を把握し行動できるようになるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 忘れやすいことや時間管理、整理整頓などの目標を達成するために『実行機能カステップアップワークシート』を使い、自分について評価したり、具体的な手立てについて考えたりする。 <p>自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トランプ、ボードゲーム、羊毛フェルト等で小物づくりをしながら、会話する。 	<p>通常の学級での指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳がきちんと書けているか確認し、忘れ物がなかった日には、家庭にも分かるようにスタンプを押す。 ・目標ができていれば通級の連絡帳を使って評価する。 ・学級の中でのがんばりを口答で本人に伝えるとともに通級の連絡帳に記入する。(評価の可視化)
--	--



あたし研究



実行機能カステップアップワーク

<p>通級での変容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学校生活や家庭で困っていることを指導者に言葉で伝えられるようになった。 * 自分の苦手なことへの対処の仕方が分かり、前向きに取り組めるようになった。 	<p>通常の学級での変容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 遅刻せずに登校できるようになった。 * 話をしている人の方を見て、話が聞けるようになった。 * スケジュールや持ち物などを忘れないためにメモ帳を活用するようになった。 * 友だちと過ごす時間が増えた。
--	---



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学校 低学年

- ・友だちへの関わりが受動的で、能動的な関わりが苦手である。
- ・困ったときに、動かず静かに涙を流すことが多い。

長期目標

- ・自分から友だちに関わっていくことができたり、困った時に助けを求めることができたりするなど、好ましいコミュニケーションがとれるようになる。

通級での指導・支援

自信を付けるために

- ・自分を大切にするという気持ちで名前を丁寧に書く。
- ・『聞きとりワークシート』、『コグトレ』、点つなぎ、学習プリント(読み書きプリントや復習プリント)などをする。

自分がんばれる課題に取り組むことで、一人でできることを意識させる。
→次の活動(友だちとのつながりでがんばる課題)とのメリハリを付ける。
課題に向かう姿勢や集中している態度などを、随時、具体的にほめる。
→自信を付けて自尊感情を高める。

困ったときに「助けて」と言えるように

- ・SSTの課題(誘い方や断り方など)やサイコロトークキングなどの活動を通して、お互いのことを考える時間をつくる。
- ・発言の際に「分かりません」「次の人お願いします」など、援助要求の言葉を例示し、言うことができたときに必ずほめる。

『友だちと仲よくすごすためのスキルアップワーク』より

自分から友だちと関わって楽しむために

- ・[がくしゅうすごろくゲーム]、カードゲーム、ボードゲームや協力して体を使う遊びなどをする。



活動の振り返りをするために

- ・良かったこと、できたことを中心に言語化する。 **がくしゅうすごろくゲーム**

通常の学級での指導・支援

- ・ペア学習やグループ学習など、友だちとやりとりできる授業形態を取り入れる。
- ・体育の時間に「体ほぐしの運動」「身体接触のある運動」等を積極的に取り入れる。
- ・週に数回、学級遊びをし、意図的につなかりをつくる。
- ・本児が友だちとつながれるように場面設定を工夫する。例えば、少人数で行える作業を取り入れたり、うまくつながって楽しめたときや困ったことを伝えてきたときには、ほめたりする。
- ・何が良かったのかを具体的に伝えることを継続する。(成功体験を言語化し、強化する)

通級での変容

- * 困ったときに、動かなかったり涙を流したりすることがなくなった。
- * 休み時間に一人でいることが少なくなり、自分から友だちに関わっていけるようになった。
- * 「～がしたい」「～はしたくない」等、意思表示がはっきりしてきた。
- * 活動時の表情が豊かになり、笑顔も多くなってきた。

通常の学級での変容

- * 数人の輪に入り、友だちと遊ぶことが多くなった。また、遊ぶ約束をして帰宅することが増えてきた。
- * 通常の学級での友だちとの遊びを通して、好ましいコミュニケーションがとれるようになってきた。